

労働者千人以上を削減

ついに三井東庄化学の合理化



中央倉庫の三川鉱移転、新港社宅108棟

の強制退去反対の決起集会

昨年十一月会社側から示された「四十六年度下期の合理化計画」の中で、本所の中央倉庫の三川鉱移転、新港町社宅百八棟の強制退去の方針が明らかにされると、時をうつつさず組織内部から猛然と「反対」の音がまぎらなくなった。この二つの処置が、現在三井独占の手ですすめられて

倉庫移転・社宅退去反対

「今年もやるゾ！」

七二年度 抗議ストと決起集会

規模な企業合理化計画の中から押し出されてきていることが、察知されたからにはかならなかつた。従って三池労組はただちに三井鉱山に対し、右の計画の撤回を要求して強く交渉してきたのだ。ところが、会社にその要求を踏みにじり、いよいよ一計画を強行する段階を迎えたものである。そのため三池労組はいよいよ重

大決意をもって、去る七日(金山)時間五十分の期限ストライキをうって会社に抗議すると同時に、全組合員を、強制退去が予想されている同社宅前に組合員を集集、決起集会を開いた。

清水教授来組

この十七日から清水博士(信州大教授を久方ぶりに三池に迎え、各指導部、執行委員会、主婦会などとの間に、綿密な交流計画がすすむが、またこの機会だけに積極的な参加を希望している。三池の闘いにプラスにすることが大切だ。

「今後は三井を相手に」

三池じん肺会、対会社要求へ

「三池じん肺会」は、去る九月初の役員会議(三川指導部)を開き、これまで、これほどおびただしい数の労働者をじん肺患者にして殺した張本人の、三井東庄倉庫に對する姿勢が弱かったことが反省のうえに立って、これからはCO患者の場合と同様、何はにおいても三井鉱山に對して「解雇制限」(停年退職の日までクビを切るな)、「前取補償」(症状の進行につれて転作業に移る場合、せめて前取を補償せよ)、「完全治療」の原則的要求をつきつけ、闘ってゆく方針を確立した。

同じん肺会はずで昨秋、大牟田・荒尾両市に對して「自治体として、会の活動に對して助成してもらいたい」との要請を提出しているが、両市の社会党市議の手で、いよいよ頼む助成が実現しそ

あくまで完全雇用を

化学三労組、共闘でたつ

配転には「三原則」をつらぬけ

かねて一般から関心が寄せられていた三井東庄化学の合理化計画の全貌が、この十四日(日)より明らかにされた。計画によれば、八百八十一人と、大量の労働者を「社外配転」にするなど、現在同企業に九千四百四十七人いる労働者を、千人以上も削減して八千四百人にするのだ。

余りな生産拡張と張り詰めた失敗責任を、労働者にしわよせする犠牲によって乗り切ろうとするところは、三井鉱山の常套手段に瓜二つだが、これに對して大牟田現地の化学三労組(三化労組、合化東庄労組、金東庄労組)はいっそうの決意をこめ、かえって「完全雇用」および「配転はあくまで本人希望によれ。配転による労働条件の低下は許さぬ。配転後の職場の完全な人員確保」などの配転三原則をつきつながら、共闘を固めて闘ってゆくという。

三井東庄化学の組合側への提案は、ますます深刻化する状況で、一ことが、三井東庄の体質を強化する日も早い配転目的達成が必要となつていきます。関連産業への配転に好転のききがなく、むしろ事態より、八千四百人体制を實現する

五百六十九人削減して二千三百八十八人にするのだという。なかでもその創業以来長く生産つづけてきた肥料部門(一時石油化学による肥料生産が盛られた)など完全に生産ストップ。三百三十一人から百二十八人にけずられるのである。

配転——といえ、かなりの数の社外配転が出るが、対象となる系列企業は七十数企業もある。なかでいくつあるか。そんな企業への配転は、多くの場合が事実上の首切りとなるに相違ない。

会社が合理化提案を出してくる二日前の十三日、三化労組の長島委員長は語った。

「すでに会社は配転希望者を募っています。出ている希望者はわずか五六人。いま大牟田で働いている労働者はそれぞれ、よそへはゆけないうちの者はかりです。まして多くは赤字経営の系列会社への配転では、だれが好きか、のんでゆく者がいますか。テイのよい首切りですよ。

会社も、いよいよとなれば首切りを考へてはいないはずはありませ



首切り反対に決起する 化学三労組

年の十月、さらに四十一年の三月



発行所
三池炭鉱労組
大牟田市不知火町2
電話 ③3033番
③3034番
編集兼人 山下 開
発行 半年間600円 送料共

「買上げストップを打破する春闘に結束しよう」
福岡県評は完全雇用、最賃制、教育を守るためなど、五大要求をかかげ、一月二十六日より三百名のオルグ活動による春闘決起

の宣伝活動を行うことになった。三池労組は、大規模買上げの前段として福利厚生闘争を組織して地域を土台にして一月十七日より行動を開始した。新港一〇八棟強制退去反対闘争の教訓をさらに拡げ、前進をかちとろう。

ん。なぜなら、組合が「完全雇用を認めよ」と要求すると、会社は「さういふ要求は、きびしい銀行筋の要求もあるのに、何ごとか」と、少くとも三化労としましては、

やむを得ず配転となつても、①本人の意志を尊重すること。②労働条件の低下は絶対認めぬ。③転出後の職場の定員確保——これだけは一歩もひかぬ決意です」

の、五回にわたって実施され、いずれもそのため大量の労働者が職場から追ひ出された。まさしくこんどは、六回目の合理化(実質的には首切り)強行となる。

三化労組、合化東庄では「断じて首切りをハネ返す」と決意を固めているが、企業の失敗責任を常に労働者に転嫁するやり方だけは絶対に許してはならない。